

ケルン国際ハードウェアメッセ 2014

2014年3月9日(日)～12日(水)

会場：ドイツ連邦共和国 ケルンメッセ会場

2014: 会場全体に満足感

- ・ ビジターのレベルと国際性は過去最高に - 世界 136 カ国からの来場者
- ・ 出展者数は 4.5% 増
- ・ イノベーション発信地の役割を再確認

今回のケルン国際ハードウェアメッセは、前回以上に素晴らしい雰囲気の中に終了しました。会場では、展示のクオリティを高く評価する声が圧倒的でした。53 カ国から参加した 2,783 社の出展者は、ハードウェア業界のビジネスと技術革新において、このメッセが世界でも中心的な役割を果たしているとの認識を新たにしました。ケルンメッセのカタリーナ・C・ハマ副社長は「出展者数が前回より 4.5% 増えたことを喜んでいますが、来場者数も安定しており、さらに国際性が高まりました」と説明し、この見本市が質量ともに充実していることを強調しています。最終日概算を含めると、今回は世界 136 カ国から約 50,000 人がケルン国際ハードウェアメッセを訪れました。

出展者数は 2,783 社で、2 年前の前回と比べ 4.5% の大幅増でした。142,000 m² の展示スペースに工具、業務用工具、締め具・留め具、金具、DIY 製品などが展示されました。この中で最も展示面積を拡大したのは工具と業務用工具の分野です。Beta Utensili、Friedr、Dick and Hugo Brennenstuhl といった大手企業が会場に戻ってきました。

ハイレベルの海外バイヤーが多数来場

出展者はバイヤーのレベルの高さに満足しています。そのほとんどは「メーカーや商社の上意決定者が世界中から当社ブースを訪ねてくれた」と話しています。中立的な来場者アンケートの結果もこれを裏付けるものです。回答者の約 73% は 購買の意思決定に関与しており、44% は意思決定者でした。見本市は、充実した展示内容で専門バイヤーを納得させました。展示には来場者の 79% が「満足」、または「非常に満足」と回答しています。これを反映し、来場者の 78% が「来場目的を十分に果たせた」または「まずまず果たせた」と答えました。90% 以上の来場者が、親しいビジネスパートナーにケルン国際ハードウェアメッセへの来場を薦めるとしています。

J. ヴォルフガング・キルヒホッフ氏（キルヒホッフグループ代表取締役兼契約責任者、ハードウェアメッセ諮問委員会委員長）は次のように総括します。「当社ブースは最初の 3 日間、非常に多くの来場者で賑わいました。商談の内容も満足できるものでした。その点では国内のバイヤーも海外のバイヤーも同じです。特に新製品のビット各種、工具セット、VDE ドライバーなどが人気でした。業界には全般的に活気が感じられます。幸いなことに、スペインやギリシャなどのバイヤーも例外ではあり

ません。不況もやっと底をついたのではと見ています」。ライナー・ランゲリュデック氏（ドイツ工具産業協会（FWI）専務理事）も同様に、会場の盛況ぶりを強調します。「協会の立場から見ても今回のハードウェアメッセは素晴らしいイベントでした。これは恐らく市場に活気があることに関連しています。業界の景気予測が今年は楽観的ですからね。会期中、ほとんどすべての会員と情報交換しましたが、メッセに不満を感じている会員は1人もいませんでした。『本当に来てほしかったバイヤーがブースを訪ねてくれた』という声が圧倒的でした」と語ります。

ドイツ DIY・ホームセンター・ガーデニングセンター連盟（BHB）のペーター・ヴュスト専務理事も、連盟ブースが終始賑わったことから、今回のハードウェアメッセを高く評価します。「連盟として出展成果に非常に満足しています。前回より出展スペースを拡大して、当連盟のサービスと実績を最適の形で展示できました。同時に販社、メーカー、物流、コンサルティング、業界紙などのサービス企業に対し、当ブースを最初の重要なコンタクト先として、そしてコミュニケーション・プラットフォームとして提供することもできました。多くの出展者やバイヤーが、喜んで連盟ブースを利用していました。以上の背景から、連盟は今回も会期中にブースで記者発表を行ったのです」。

ビジネス・コミュニケーションに最適の場

今年のハードウェアメッセは第一級のビジネスを可能にするだけでなく、『EISEN フォーラム』においてビジネス・コミュニケーションの機会も提供しました。各賞授賞式の会場となった『BHB フォーラム』、材料管理購入ロジスティクス協会（BME）主催の「バイヤーズ・デイ」、Canadian Tire、Hornbach、KWB で構成する国際的なバイヤーグループ「プレジデント・カウンスル」といった枠組みも、例年通り業界関係者に高く評価されました。今回初めて『エキスパート・トーク』と『スピーカーズ・コーナー』が開設され、発表者と聴衆の対話が活発に行われました。こうした場で、発表者が貴重な専門ノウハウを聴衆と分け合い、また出展者は自社のプレゼンテーションを行いました。ハードウェア販売業中央連盟（ZHH）のトーマス・ダムマン専務理事は、この見本市があるべき姿に向け発展していると見ています。「レベルの高い商談から生まれた活気、それこそ今年のハードウェアメッセの特徴です。多数の出展者が今年も革新的な新製品を持ってケルンに集まり、このメッセを業界のアイデアの源泉としました。『EISEN アワード』や PVH（B to B）パートナーの選出といったイベントとあいまって、全体として非常にポジティブな印象を与えています」と語ります。3Dプリンターや「トレイニーズ・デイ」といった特別プログラムも見本市の成功に寄与しました。

アナログは過去、デジタルこそトレンド！

今回のハードウェアメッセのトレンドは、分野を問わず効率アップ、エルゴノミー、そしてデジタル化でした。**電動工具**メーカーは競ってブラシレス電動機を展示、軽量、高性能でありながらメンテナンスの必要がない新製品をアピールしました。これに伴い、バッテリーパック技術もますます改善されています。**照明**の分野でも効率と使いやすさに重点が置かれています。特に LDE 技術が人気です。最新の LED は従来の電球に比べ同じ性能で平均 80 パーセントもエネルギー消費を削減でき、しかも寿命は 50,000 時間もの長さです。**付属品**部門では、施錠できるパッド入り工具バッグ、作業カートの固定状態を改善するための強力ディスクブレーキなどが人気を集めました。作業員の安全向上のた



め、ワンタッチで装着できる、はしご用の強力な滑り止めなども紹介されました。水準器のようなシンプルな器具も、指がぴったり収まる溝をはめ込むことで改善されています。ホーム・オートメーションの分野ではモバイル制御がトレンドです。コンセント用の制御アプリに始まり、シャッターや底を省エネモードで作動させる無線技術まで、様々なテクノロジーが来場者の関心を集めていました。

豊富な技術革新の数々

イノベーションとサステナビリティこそ、業界の未来と競争力を確かなものにします。ケルンメッセはZHH そしてBHBと共同で、ハードウェア業界で最も革新的な製品開発とCSRを実現した企業に『EISEN2014』賞を授与しました。ZHHが選出するイノベーション賞は、Alulock、P.F.FREUND & CIE.、GEDORE Tool Center、そしてLeica Geosystemsの各社に授与されました。また、BHB が選出したCSR賞は、IZAR CUTTING TOOLS社とKNIPEX-Werk C. Gustav Putsch社に贈られました。

次回のケルン国際ハードウェアメッセ 2016 は、

2016年3月6日から9日まで開催されます。

ケルン国際ハードウェアメッセ 2014 データ

ケルン国際ハードウェアメッセ 2014 には、53 カ国 (2012 年 : 50 カ国) から 2,783 社 (同 2,665 社) が出展しました。出展者の 87% がドイツ国外の企業でした (2012 年 : 85%)。最終日概算も含めると、ケルン国際ハードウェアメッセ 2014 には 136 カ国 (2012 年 : 132 カ国) から 50,000 人 (同 53,500 人) の専門ビジターが来場し、うち 63% (同 61%) はドイツ国外からの来場者でした。

ケルンメッセは 90 年間にわたり、人と市場を結び続けています。1924 年、ケルン・ドイツの会場で最初の見本市を開催して以来、着々と実績を重ねてきました。この「ライン河畔のメッセ」は、戦後の経済復興の時代に国際的なビジネスの拠点となりました。今日、ケルンメッセの会場は世界第 5 の規模で、ケルンと世界各地で年間 75 の見本市を開催しています。創立 90 周年にあたる 2014 年、ケルンメッセは多数のイベント、出版物と展覧会で広報活動を強化する方針です。

ケルン国際ハードウェアメッセ Facebook: <https://www.facebook.com/eisenwaremesse>

ケルン国際ハードウェアメッセに関するお問い合わせは:

ケルンメッセ株式会社

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-13-6 恵比寿ISビル5F

Tel: 03-5793-7770 / Fax: 03-5793-7771

e-mail: kmjpn@koelnmesse.jp URL: www.koelnmesse.jp